

令和 4 年度
ケアハウス 鶴翠苑
事業報告書

(1) 基本方針

ご利用者が喜怒哀楽の感情を豊かに表現することができるよう、ご利用者らしさを大切に施設運営を行います。

(運営方針)

- ① ご利用者の思いに寄り添った支援を行うことで、ご利用者の楽しみを2倍にし、悲しみを分かち合うことができるような環境作りに努めます。
- ② ご利用者の人権を尊重し、安心、安全に笑顔あふれる生活を送っていただくことを目指し支援を行います。
- ③ 自立した生活を継続することができるように介護、看護、機能訓練等の専門スタッフのチームケアによる充実したサービスの提供を行います。

(重点目標)

① 機能訓練と連動した様々なレクリエーションとケアハウス内でできる季節の行事等のイベントに力を入れ、ご利用者に楽しんでいただけるよう取り組みました。しかし、新型コロナウイルスの流行により、外出が病院受診だけになり、ドライブ等の外出の機会が減ることになりました。外出で外の空気を吸い、ケアハウスの中でのイベント等で体を動かし楽しむ時間が減り、生活にメリハリをつけ活気ある生活を送っていただくことができませんでした。令和5年度は、とにかく外に出ようと考えており、ご利用者にいどころある生活を送っていただけるよう努めます。

また、口腔ケアへの取り組みについては、協力歯科医のアドバイスと毎月開催の口腔ケア教室等の実施により、口腔ケアの重要性についてご利用者と職員が一緒に学ぶことができ、毎食後の口腔ケアの大切さを知る良い機会となっております。今では、毎食後の口腔ケアの実施が習慣となっております。

そして、職員も口腔ケアチェックから得た情報を職員間で共有し、ご利用者の食事量の低下と口腔内の健康を結び付けて考えることができるようになっており、「義歯の不具合等が食事摂取量の低下を生んでいないか」に着目してケアに当たることができるようになりました。その結果、適切な時期の往診、受診へとつなげることができました。今後も「ご利用者一番」を基本とし、ケアハウスの職員全員が、ご利用者の人権を尊重し、人生の先輩に礼儀正しく接することができる職員となるよう努めます。

② ご利用者の健康管理については、看護師による午前、午後のバイタルチェックや介護職員が室温、湿度のチェック時に声掛けを行い、「今日のご利用者の様子」をしっかりと観察し、声掛けに対する表情や受け答え等で細かな変化に気が付き、健康状態を判断できる看護の眼を養うことができるよう努めました。看護師が、ご利用者一人に1日2回は関わりを持ち、日々の状態観察を行うことが、ご利用者の安心に繋がっております。また、介護職員が入浴時の皮膚状態のチェックを欠かさず行い、看護師への報告を忘れず行うことで異常の早期発見ができております。

感染症対策については、職員が徹底することはもちろんですが、職員の家族の健康管理にも気を付けて体調管理を行いながら感染症予防を継続して行いました。また、ご利用者及びご家族のケアハウスでの感染症予防対策へのご理解とご協力もあり、当年度もインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等の感染者はおりません。引き続き、「感染を持ち込まない、拡げない。」の実践を継続しております。

ご家族への報告も事故報告だけでなく、認知症の進行に関する状況や持病の変化等、日々の関りから得た細かな情報提供を行っています。そのこともあり、病院受診への依頼には迅速に対応してもらっており、状態の悪化を防ぐことができています。

③ コロナ禍でも可能な地域との交流を考えていましたが、地域のイベント自体が中止になり予定していた職員のイベント、奉仕活動等への参加ができませんでした。ボランティアの受け入れに関しては、高校生ボランティアの受け入れ直前で東予地域の感染者が急増し、やむなくお断りをする事になりました。3月には、1名ですが河原医療福祉専門学校（高松市）の学生ボランティアの受け入れを行い、少しの時間でしたがご利用者との会話や入浴の介助等の関りを持っていただくことができました。来年度のイベントへの参加のお話をすると、「是非、参加したいです。」と言ってもらうことができました。

（２）ご利用者に対するサービス

● 食事

ご利用者の生活において楽しみのひとつである「食べること」の充実に努め、毎月のメニューにご利用者の要望がなるべく映されるよう、管理栄養士を中心に職員全員でご利用者の意見や感想の収集に努めました。また、嗜好調査のアンケートや意見箱を施設内に設けてご利用者の要望等の情報を集め、毎月の給食会議の際に、収集した意見を厨房や管理栄養士に伝えております。すべての要望を実現することは難しいですが、ご利用者の咀嚼状況及び嗜好等に配慮した食事の提供に努めました。ご利用者からは、「此処のご飯は美味しい。」との感想をいただくことができました。

ご利用者に好評のおやつイベントは継続しており、季節感を感じていただき、ご利用者と職員が時間を共有することで、作る楽しみ、食べる喜びを感じていただくことができていると思います。昔食べたことのあるお菓子や、子供さん達に作ったことがあるおやつを選ぶことで、昔を思い出しながらご自分で作ることの達成感、作ったものを味わう満足感を感じていただくことができいております。おやつイベントで指先を動かすことが ADL の維持に繋がり、おやつ作りの際の匂いや色が脳を活性化させる等、生活の場である日常を豊かにするイベントになっており続けていきます。

● 入浴

週 2 回の入浴を行い、体調不良等で入浴ができないご利用者に対しては、清拭を行いました。ご家庭のお風呂を思い出していただけるよう普通浴槽での入浴を基本としておりますが、身体状況により普通浴槽での入浴が困難な方に対しては、機械浴槽（リフト浴）を使用しております。少しでも

入浴時の負担が軽減され、快適な入浴の時間を過ごして頂けるよう支援を行いました。また、コロナ禍で、下肢筋力の低下が見られており、冬場の体の動きが悪くなる1月から3月の間は、血行促進を目的として、入浴の時間を少しでも長く取っていただけるよう、入浴の組み合わせや入浴日の変更について、ご利用者の承諾をいただき実施しました。浴槽内で上下肢を動かし運動不足の解消やゆっくり湯船に浸かることで体を温め、リラックスできるようお一人の入浴時間を長くしております。季節を感じていただく入浴として、菖蒲湯、柚子湯に入らせていただく日を作り、好評でした。

介護施設の事故で死亡に繋がる危険性が高いケースが入浴時の事故となっており、ご利用者の安全な入浴が担当する職員の責務となっております。緊張感を持ちつつ、入浴時のご利用者との会話を楽しみながら、次回の入浴が待ち遠しいと感じていただける時間の提供を心掛けました。当年度も入浴時の事故は発生しておりません。また、入浴時が一番ご利用者の皮膚状態の観察ができる機会なので、最大限に活用し、健康管理の情報収集の場としております。

- 排泄の介助

現在、ケアハウスで紙パンツをご利用されていない方が6名となっております。紙パンツ使用のご利用者については、職員が清潔保持のために紙パンツ交換の声掛けや介助を行っています。また、自立支援の観点からケアハウスでの生活において排泄時はトイレを使用することを基本としてケアを継続しました。入居時に便秘の方が多くおられます。排便を促すために体を動かして頂くよう、健康体操への参加の声掛けや状態に応じた歩行訓練の実施、水分摂取に力を入れ実践しております。

特に長期の便秘のご利用者には、体を動かし、水分をしっかり摂ることで腸内活動が活性化し、便秘の予防、改善ができることを理解していただけるよう取り組みました。水分摂取に関しては、「飲み過ぎると、おトイレが近くなる。」と言われ拒否をされる方がいらっしゃいますが、時間をかけお話をすることで、1日1,000cc以上を目標にして飲んでいただけるようケアを行っています。結果、残存能力を維持することができ、ポータブルトイレを使用の方が1名おられますが、その他の29名はトイレでの排泄ができております。排泄面での衰えが、ご利用者の喪失感に繋がり、ケアハウスでの生活の継続が困難になる一番の要因となる為、ご利用者一人一人の排泄への個別対応に力を入れ支援を行っています。便秘の解消については、日々の関わりに加えて、看護師がご利用者、主治医と相談し、緩下剤の調整を行っており、現在、長期の便秘でお悩みのご利用者はいません。

- 健康管理

コロナ禍を考慮して、病院受診についてはご本人の受診が必要かを主治医に確認していただき対応しております。その結果、お薬のみの処方が多くなり、病院受診の回数が減っているご利用者もおられます。ご利用者の中には、病院受診をすることがご自身の安心に繋がっている方もおられ、

先生に診てもらえていないことへの不安等について看護職員、介護職員等が対応し、様々な悩みや相談等にお答えして不安の解消に努め、健康管理を行いました。また、ご家族が面会等の自粛によりご利用者の様子をなかなか知ることができない不安解消については、できる限り詳しく、日頃の状態の異変について生活相談員が細かな情報の提供を行い、ご家族とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築に努めました。

また、介護職員が入浴時の皮膚チェック等の日々の関わりの中で気付いた小さな変化を看護職員に報告することを習慣とし、情報共有を行うことで異常の早期発見に繋げております。介護職員が強く意識をして取り組むことで、看護の眼を養うことができております。入院を必要とされる方については、病院の相談員等との連絡を密に行い、早期退院へのご家族と医療機関とのパイプ役となるよう支援を行いました。

- 機能訓練

コロナ禍で外出や野外活動の機会が減り、ご利用者が体を動かすことに消極的になり、日々の生活を活発なものにすることができませんでした。ご利用者の ADL の低下防止として、毎日の健康体操、歩行訓練、車椅子の自走訓練への参加の声かけは継続しましたが、いつもより訓練回数が少なくなる方やお休みされる方が増えることもありました。レクリエーションについても上肢、下肢の強化を考え、楽しみながら行えるよう新しいレクリエーションを取り入れ、その取り組みを介護職員、看護師、機能訓練指導員等が振り返りを行い、下肢筋力の維持、低下の予防に努めました。

プリント問題等(計算ドリル・漢字ドリル)による脳の活性化についても取り組みましたが、集中力が続かず途中でやめてしまう方もいらっしゃいました。令和 5 年度は、毎日の生活の中で朝起きて夜寝るまでがリハビリと考え、ご利用者個々の生活のリズムを大切にしながら、日々の生活がメリハリのある生活となるよう取り組みます。引き続き、自立支援を基本とし、自分のことを自分できる、自分の足で歩ける、今動けていることの大切さを伝えながら、ご自分で動ける喜びを感じていただける機能訓練への取り組みの工夫を行います。

- 相談および援助

コロナ禍で自粛をしていただくことが多くなり、ストレスを感じているご利用者からの相談もあり、誠意をもって対応を行いましたが、すべての方に満足をしていただくことはできなかったと思います。運営懇談会等でコロナの感染者が急増していることをお伝えしましたが、「お孫さんに会いたい。」「ひ孫さんに会いたい。」との要望は強くあり、現在の感染状況等を考えていただくことが難しい方もいらっしゃいました。ご要望にお答えできないこともあり無力感を感じることもありました。ご家族からの様々なご相談についても誠意をもって応じ、可能な限り必要な援助を行うよう努めました。電話対応がほとんどで、対面でじっくりお話をする機会を設けることはできませんでした。新型コロナウイルス感染症予防の為、病院

受診時も病院とケアハウスの往復のみとして、「ちょっとお買い物」等の時間についてもご遠慮をいただくことが多くありました。面会等の自粛をお願いすることになりましたが、ご家族への連絡の際は、ご利用者の近況等細かな情報の伝達を意識して電話対応を行いました。日頃から状態を正確にお伝えすることで、住み替えについてのご家族とのお話もスムーズに進み、ご理解をいただくことができています。その結果、ご利用者にとって最適な環境での生活の場を提供することができております。

- 行事、クラブ活動

年間計画通りの外出行事が実施できず、ご利用者にはストレスを感じる1年になったと思います。残念、悔しい思いは職員も同じで、天気の良い日に皆さんと外に出掛けることができないことへのフラストレーションは溜まっていたと思います。その分施設内で実施可能な誕生会、カラオケ、敬老会、クリスマス会、絵手紙クラブ、習字クラブ、オセロクラブについては、入居者に楽しんでいただけるよう工夫をし、コロナ禍でも日々の生活に楽しみを感じることができるようみんなでアイデアを出し合い、考え取り組みました。また、月ごとにレクリエーション予定表をご利用者にお知らせし、日替わりのレクリエーションを行い、上下肢を使用したゲームや頭の体操のプリント問題等による脳の活性化を目的とした様々な取り組みも行いました。おやつイベントも担当者を毎月変え、職員の個性と日々の関わりから得た情報をもとにご利用者の要望に応えることが出来るよう昔の物から今流行りの物まで様々なメニューを考えました。ご利用者に季節を感じてもらえ、作る楽しみ、食べる喜び、昔を懐かしむ、今を感じてもらおう機会になるよう取り組みました。

- 防火・防災対策

ケアハウス鶴翠苑とグループホーム鶴翠での合同の避難訓練をご利用者参加で年2回夜間を想定し実施しました。従来の火災想定での避難訓練だけでなく、今後発生が予想される東南海地震等の災害時の避難訓練も実施しています。職員だけでなく、ご利用者にもいつ現実のものになるかわからないことへのご理解をいただくことができるよう参加者全員が真剣に取り組みました。訓練後は、参加職員で反省会を開催、意見交換を行っています。いざという時の対応にはお互いの職員同士はもちろん、ご利用者の顔と名前は最低限覚えておく必要があるとの意見が多くあがり、日頃の両施設の交流の必要性を再認識しております。引き続き、「安全に」「早く」ご利用者の避難誘導ができるよう、日頃から防火、防災対策への備えを行います。今後は、ケアハウスのBCP（自然災害）への理解を深め、周知徹底できるよう意識を高く持ち、防火・防災への研修等への取り組みを行います。また、不審者等への対応については、法人の顧問の防犯に関する講義を毎年実施しており職員間で情報の共有を行いました。

- 職員研修

年間の研修計画を立て、担当講師を決め、職種に関係なく介護等に関する知識や技術の向上を目指し、職員全員で内部研修を行いました。研修内容は、ただレジュメを読むのではなく、事前に資料を配布し、その内容についてのグループワークに力を入れ実施しました。グループワークでは、司会、書記、発表者を決め、参加者全員の意見を聴き、グループとしての意見を短時間でまとめる機会となるよう努めました。また、ただ参加するだけでなく、職員一人一人が考え、必ず意見を言うようにし、自分達で決める習慣をつけることができるよう取り組みました。研修のテーマは、身体的拘束等の適正化、事故防止、虐待防止、感染症予防や法令遵守、個人情報保護、ハラスメント対策等多岐にわたり、介護施設の職員として必要な知識の習得だけでなく、社会人としてのマナーやルールについて学ぶ機会にもなっております。常にご利用者一番を基本とし、人生の先輩であるケアハウスのご利用者に対して、優しさ、尊厳を忘れず、笑顔で礼儀正しく、丁寧な言葉遣いができる職員の育成に取り組んでおります。

● ボランティアの受け入れ、地域参加

コロナ禍で年間を通して、ボランティアの受け入れや職員が積極的に地域のイベントに参加をし、交流する機会を設けることができませんでした。ケアハウスのイベントに参加をしたいと高校生ボランティアが応募してくれましたが、イベント開催直前に新型コロナの感染者が東予地域で急増しやむなくお断りをする事になり中止しました。ご利用者も高校生ボランティアの来苑を楽しみされており残念がっておられました。

3月には、1名ですが河原医療福祉専門学校の学生ボランティアの受け入れを行うことができ、ご利用者と少しの時間でしたが会話や入浴の外介助等の関りを持っていただくことができました。

(3) その他の重要な取り組み

① 新型コロナウイルス感染症予防及びまん延防止対策

新型コロナウイルス感染症等の感染予防については、ご利用者、ご家族、職員及び同居のご家族等のご理解とご協力があり、感染対策の徹底ができ、感染者を出すことなく当年度を終えることができました。いつ誰が感染してもおかしくない環境にありながら、ご利用者に感染者が出ることがなく過ごすことができました。

また、受診等で外出した際もご家族が感染対策を徹底してくださり、施設と病院の往復のみにご協力をいただいた結果だと感謝しています。引き続き感染対策についての職員研修を行い、感染症への新しい知識の習得に努め感染予防の徹底に努めます。

② ハラスメント対策

令和3年度より「職場におけるハラスメントの防止に関する規程」に基づき、法人全体で様々なハラスメント防止への取り組みを行っております。職員が働きやすい環境を整備するのが事業所、管理者の努めです。管理者は、職

員の意見をよく聴き、職員はお互いを思いやり、コミュニケーションを密にし、働きやすい職場環境は自分たちで作るという気持ちでハラスメントのない職場環境作りについて取り組んでいます。そのための職員研修も行っております。今後も施設全体で職員一人一人が働きやすい職場環境について考え、笑顔で働ける環境作りを行います。

③ 地域における公益的な活動

今年度は、地域のイベント自体が中止になることが多く、職員が地域のイベントに積極的に参加をして、ケアハウスのことを知っていただく活動を行うことができませんでした。令和5年度は、地域のイベントへ参加することで地域の皆様が介護に関してどんなことに疑問を持たれているのか、どんなサービスの提供を望んでおられ、必要とされているのかを敏感に察知できるよう地域を知る活動とケアハウスを知っていただく活動に力を入れます。

また、避難訓練や盆踊り、敬老会等のイベントに地域の方やボランティアに参加いただけるよう広報活動を行います。

④ 介護職員等処遇改善加算への取り組み

資質の向上として、2025年から無資格では介護現場で働けなくなるため、無資格の職員が介護職員初任者研修を受講できるよう勤務調整等を行い、資格習得へのサポートを行い研修修了ができました。その他に年度途中の入職者で無資格の職員がいますので、来年度「認知症介護基礎研修」等の資格取得の調整を行います。引き続き、介護職員の資質向上のため計画書に沿った研修等により、介護技術と知識の向上に努め、介護職員の能力評価を行います。

両立支援として、子育てをしながら介護の仕事との両立を頑張っている職員が多くおり、職員の事情等に応じた勤務シフトや法人内の保育所の利用等の支援、職員同士が支え合う職場環境を実現、継続しております。

やりがい、働きがいの醸成については、役職者を中心とし職員とのコミュニケーションを密にすることで、職員個々が自分の意見を伝えることができる環境作りに努めました。業務遂行表についても職員の意見が反映され、利用者一番を考えたものになるよう、ご利用者の入れ替わりや状態の変化があった際は見直しを行い、統一ケアの実践に努めました。職員との円滑なコミュニケーションにより、職員にやりがい、働きがいを感じてもらえるよう努めます。

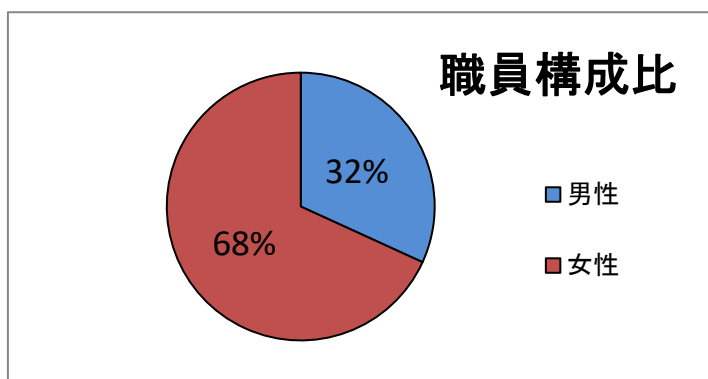


1. 事業所

① 概要

事業所名	ケアハウス鶴翠苑		
事業所種別	(介護予防)特定施設入居者生活介護		
事業所住所	西条市大野248番地1		
管理者職名	施設長 渡邊 樹義		
職員数	男性	女性	総数
	7	15	22

(令和5年3月31日現在)



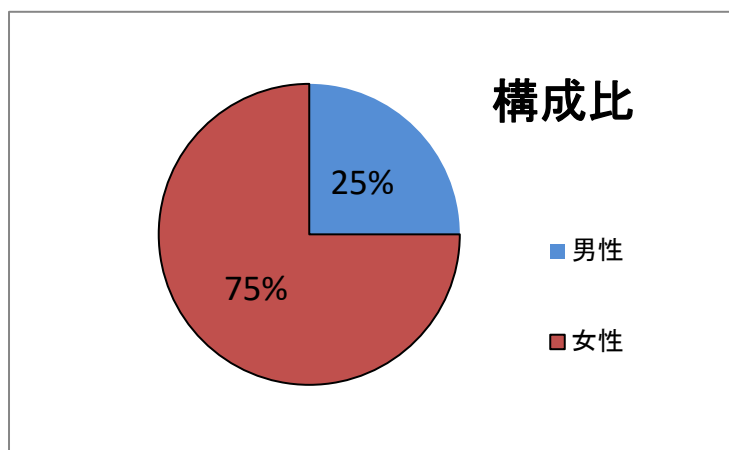
②職員紹介

ケアハウス鶴翠苑の職員は、施設長1名、生活相談員2名、介護支援専門員1名、機能訓練指導員1名、看護師2名、介護員11名、事務員1名で構成されています。また、外国人技能実習生を5名受け入れています。

有資格者は介護支援専門員が1名、介護福祉士が5名、正看護師1名、准看護師が2名となっており、各職種が連携し、利用者が安心して生活できるよう施設運営に努めております。

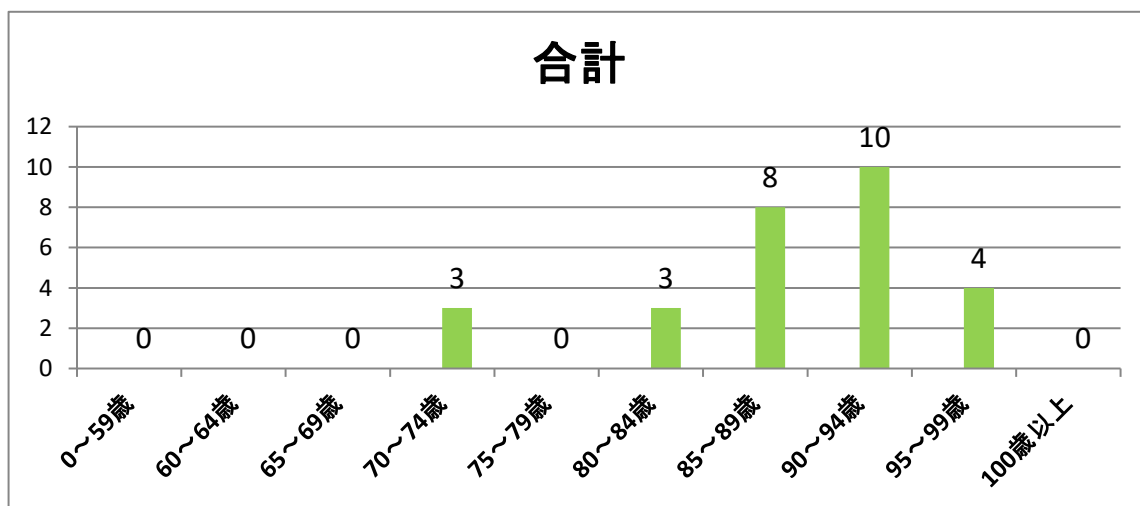
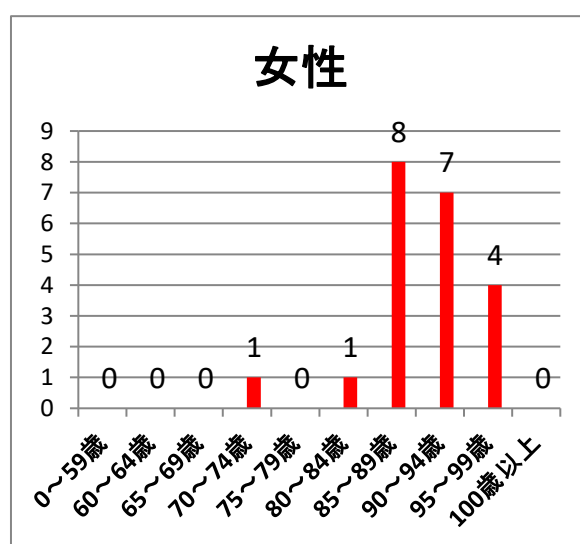
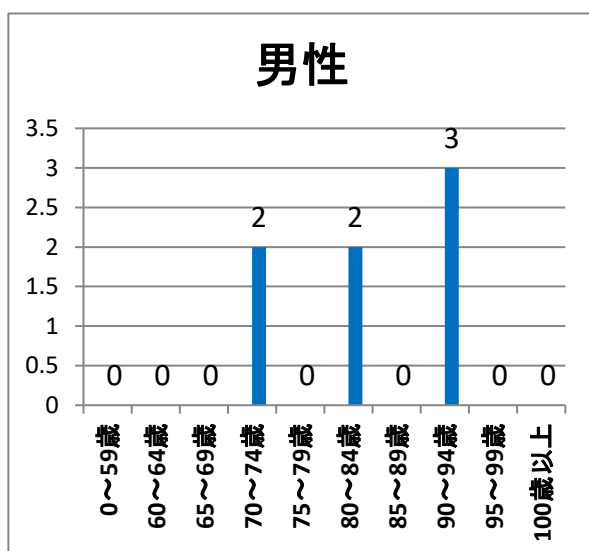
2. 定員及び現在人員(令和5年3月31日現在)

定員(名)	現在人員(名)	性別	
		男性	女性
30	28	7	21



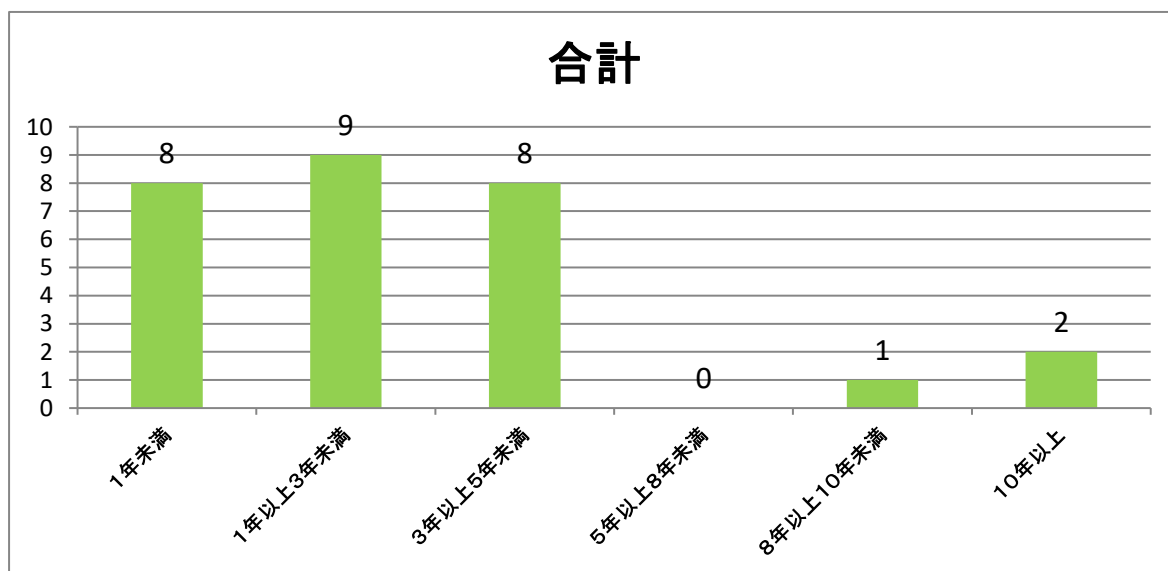
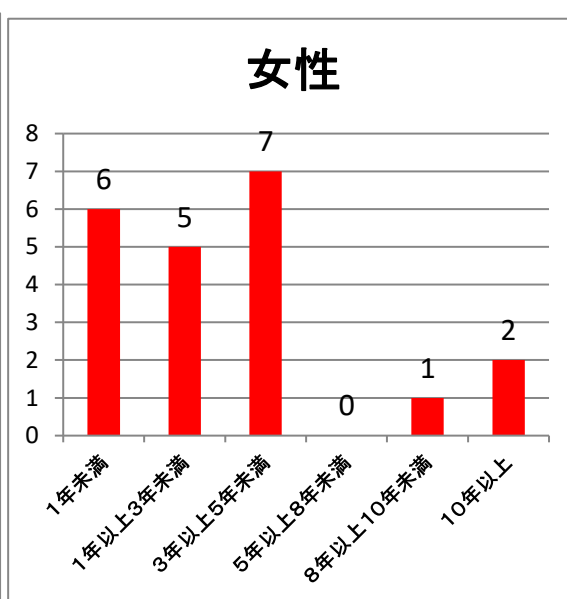
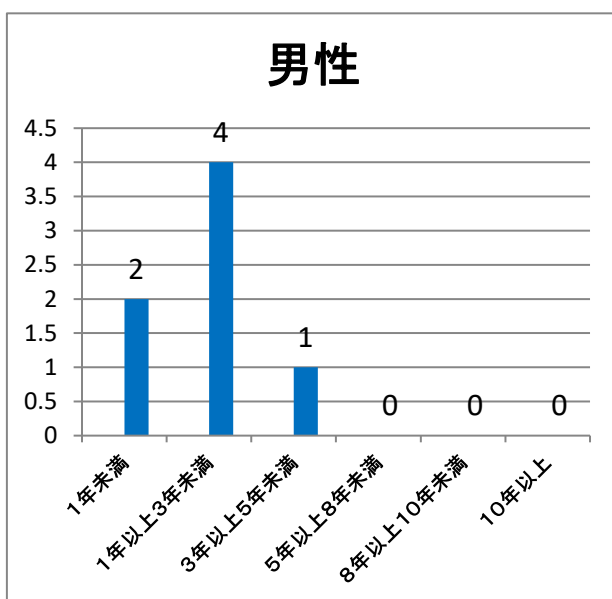
2. 年齢別人員

	男性	女性	合計人数と構成比	
			人数(名)	構成比(%)
0～59歳	0	0	0	0%
60～64歳	0	0	0	0%
65～69歳	0	0	0	0%
70～74歳	2	1	3	11%
75～79歳	0	0	0	0.00%
80～84歳	2	1	3	10.71%
85～89歳	0	8	8	28.57%
90～94歳	3	7	10	35.71%
95～99歳	0	4	4	14.29%
100歳以上	0	0	0	0%
合計	7	21	28	100%
	最高年齢	最低年齢	平均年齢	男女平均年齢
男性	93	71	83.4	86.4
女性	96	71	89.4	



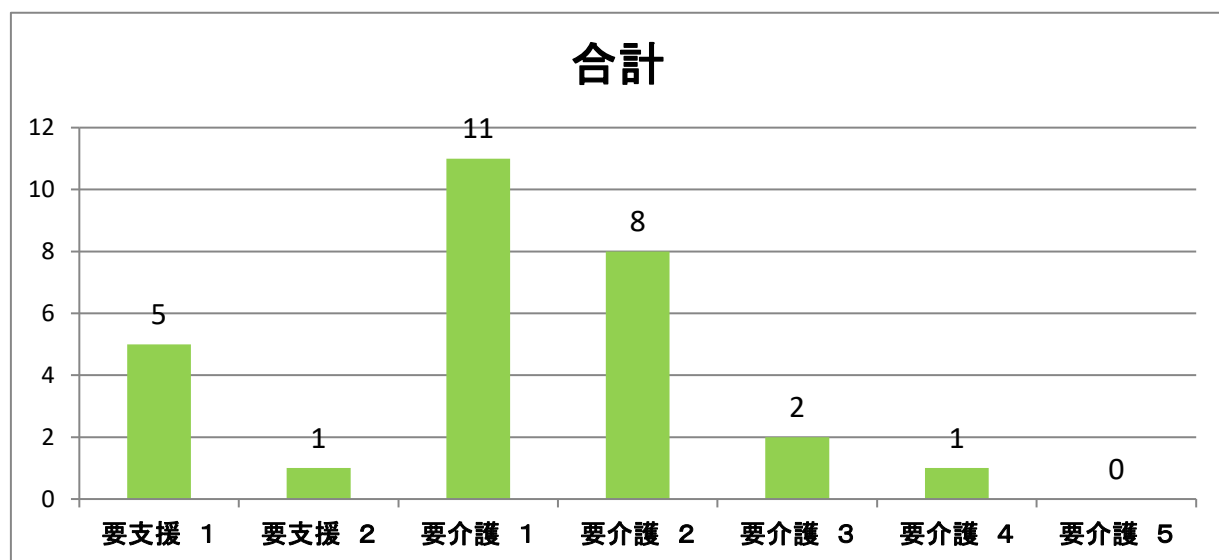
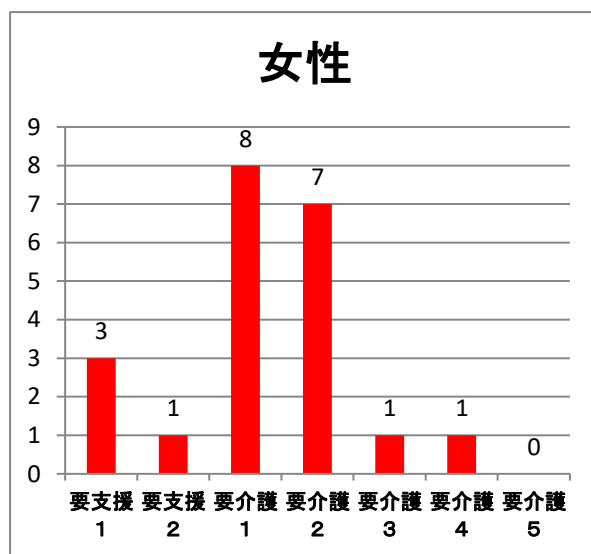
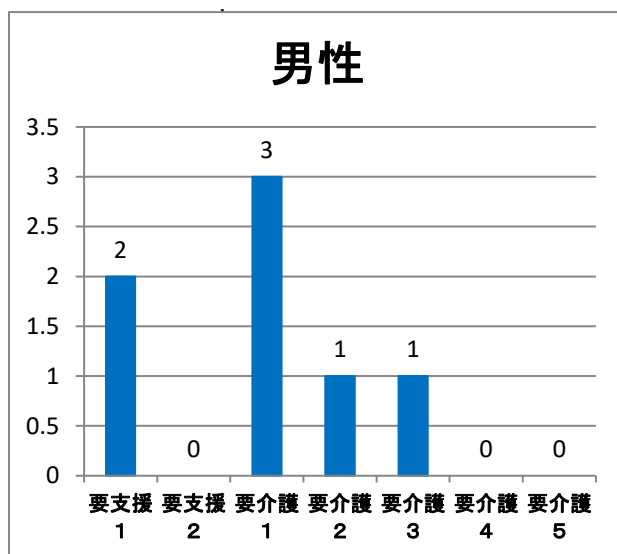
3. 入居期間別人員

	男性(名)	女性(名)	合計(名)	構成比(%)
1年未満	2	6	8	28.6
1年以上3年未満	4	5	9	32.1
3年以上5年未満	1	7	8	28.6
5年以上8年未満	0	0	0	0.0
8年以上10年未満	0	1	1	3.6
10年以上	0	2	2	7.1
合計	7	21	28	100
平均入居期間	1年9ヶ月	3年7ヶ月	全体	2年7ヶ月



4. 平均介護度別人員

	男性(名)	女性(名)	合計	
			人数(名)	構成比(%)
要支援 1	2	3	5	17.9%
要支援 2	0	1	1	3.6%
要介護 1	3	8	11	39.3%
要介護 2	1	7	8	28.6%
要介護 3	1	1	2	7.1%
要介護 4	0	1	1	3.6%
要介護 5	0	0	0	0.0%
合計	7	21	28	82.1%
平均介護度	1.29	1.48	1.41	



5. 面会状況(令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日迄の1年間)

総数	0人
1か月平均	0人/月
最高(1人あたり)	0回/年
最低(1人あたり)	0回/年
年間1人平均	0人
1か月1人平均	0人

※ 新型コロナウイルス感染防止の為、面会は中止しています。

6. 研修実施状況

【内部研修】

実施月	研修内容	研修講師	出席者数(名)
4月	法令遵守、個人情報保護について	生活相談員	16
	セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント防止について	管理者	
5月	感染症(食中毒)予防と対策について	感染症対策委員長・介護員	17
	BCP(感染症)について	管理者	
6月	接遇とコミュニケーションについて	生活相談員	15
	スピーチロックについて(身体的拘束等適正化)	身体的拘束適正化委員長・介護員	
7月	事故発生、緊急時の対応について	事故防止委員長 看護師・介護員	17
8月	災害及び防犯対策について	看護師・介護員	17
9月	ケアプランと介護記録について	介護支援専門員	14
10月	口腔ケアと栄養について	栄養士・介護員	16
11月	感染症予防と対策について(新型コロナウイルス、インフルエンザ)	感染症対策委員長・介護員	18
	BCP(感染症)について	生活相談員・管理者	18
12月	身体的拘束等適正化について	身体拘束適正化委員長	16
	高齢者虐待の防止について	虐待防止委員長	
1月	介護現場におけるリスクマネジメントについて	事故防止委員長	16
2月	機能訓練とレクリエーションについて	機能訓練指導員	17
3月	認知症ケアと虐待防止について	施設長・虐待防止委員長	15
	令和5年度事業計画について	生活相談員	

【外部研修】

実施月	研修種類	研修内容	出席者職種
9月	講義	外国人技能実習生 技能実習責任者講習	看護職員
9月	講義	外国人技能実習生 生活指導員講習	機能訓練指導員

7. 食事

【栄養所要量】

区分	1人1日当たり給与栄養量	1人1日当たり荷重平均所要量
エネルギー	1457kcal	1538kcal
たんぱく質	46.7g	42.8g
脂質	39.2g	34.1g
カルシウム	633mg	531mg
鉄	7.9mg	6.3g
レチノール当量	644 μg	484 μg
ビタミンB1	1.15mg	0.87mg
ビタミンB2	1.03mg	0.97mg
ビタミンC	85mg	100mg

【献立例】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
ちらし寿司	コクうま野菜カレー	そばろチャーハン	冷やし中華	豚丼	椎茸の五目御飯
タラ味噌焼き	きんぴらきしめん	鶏肉と大根のサムゲタン風	牛肉と里芋の煮物	炊き込みパエリア	カレイ照り焼き
ぶっかけきしめん	野菜と豚肉の辛みそ炒め	夏野菜キーマカレー	マトウダイバター焼き	ホッケ塩焼き	豆腐と豚肉の崩し煮
ふわたま麻婆茄子丼	ぶりみぞれ揚げ	牛肉とかぶの煮物	照焼き豆腐ハンバーグ	ロールキャベツ	中華うま煮丼
メバル旨煮	とんかつ	ぶっかけそば	おかかの和風チャーハン	きつねそば	赤魚粕漬焼き
チキンカレー	塩ダレチキン	肉じゃが	サバ土佐煮	さわら味噌煮	ビーフシチュー

10月	11月	12月	1月	2月	3月
エビ和風チャーハン	鶏そばろ丼	厚揚げと豚肉のとろみ	おせち	大根飯	あさりご飯
さば煮付	豚生姜焼き	赤魚味噌幽庵焼き	菜飯・五目うどん	ロコモコ丼	ハントンライス
きのこのあんかけきしめん	峠の釜めし	黄金カレー煮付	デミカツ丼	親子丼	シルバー白醤油焼き
おでん	柚子香る肉味噌うどん	かに玉甘酢あん	イワシの梅醤油煮	ニシン照り煮	チキンカツ
鮭チーズ焼き	和風牛丼	肉吸いうどん	鮭の和風ピラフ	ドライカレー	豚しゃぶと野菜のごま風味
秋鮭の中華炊き込みご	さわらハーブ焼き	年越しそば	牛肉と牛蒡のしぐれ煮	豚肉とキャベツのうま煮	きつねうどん

8. 行事・クラブ活動及びボランティア受入れ実施状況表

【行事・クラブ活動】

実施月	指導援助者	内容	参加者数(名)
4月	介護職員	作品作り、習字、カラオケ、絵手紙、おやつイベント(もちもち桜餅)、誕生会、観桜会	合計152名
5月	介護職員	カラオケ、、菖蒲湯、おやつイベント(若鮎と緑茶)、絵手紙、習字、貼り絵、ドライブ	合計236名
6月	介護職員	カラオケ、おやつイベント(七夕ゼリー)、絵手紙、習字、誕生会、父母の日、ドライブ、散歩	合計241名
7月	介護職員	カラオケ、誕生会、おやつイベント(おつかい)、絵手紙、習字、口腔ケア、七夕、シャボン玉	合計202名
8月	介護職員	誕生会、カラオケ、絵手紙、習字、スイカ割り、口腔ケア、おやつイベント(あんみつ)	合計179名
9月	介護職員	カラオケ、誕生会、おやつイベント(お月見タワー)、絵手紙、習字、ドライブ、口腔ケア	合計231名
10月	介護職員	カラオケ、誕生会、おやつイベント(かぼちゃのパンケーキ)、絵手紙、習字、ドライブ、運動会、口腔ケア	合計226名
11月	介護職員	陶芸、カラオケ、誕生会、おやつイベント(新聞紙でいろいろやってみよう)、絵手紙、習字、文化祭、ドライブ、口腔ケア	合計249名
12月	介護職員	作品作り、散歩、カラオケ、習字、鶴翠茶屋、ドライブ(年末詰め放題バーゲンセール)、口腔ケア、絵手紙、誕生会、柚子湯、クリスマス会、おやつイベント(餅つき)	合計252名
1月	介護職員	新年会、お屠蘇、初詣、鏡開き、書初め、おやつイベント(お寿司)絵手紙、誕生会、お話、ドライブ、オセロ、カラオケ、口腔ケア	合計258名
2月	介護職員	口腔ケア、カラオケ、おやつイベント(バレンタインチョコフォンデュ)、節分、習字、絵手紙、オセロ、ドライブ(ここはどこクイズ)、誕生会	合計222名
3月	介護職員	ひな祭り、オセロ、習字、おやつイベント(ピックひな作り)、誕生会、カラオケ、口腔ケア、絵手紙、観桜会	合計224名

【地域交流・ボランティア受入れ状況】

実施月	団体名	内容	参加者数(名)
3月	河原医療福祉専門学校 学生	施設見学・利用者様との交流・トイレ介助、入浴外介助見学	ご利用者28名 ボランティア1名

9. 苦情状況

【苦情状況】

日付	法人との関係	内容
令和4年度		特になし

